

平成 20 年度松くい虫防除薬剤空中散布に伴う影響調査について(県行政検査)

理化学試験室

平成 20 年度における松くい虫防除薬剤空中散布事業は、薬剤としてフェニトロチオン(以下 MEP)を使用し、6 月 9 日及び 6 月 10 日に実施された。

当所は、環境調査として、伊予市及び久万高原町における水源となる河川水の農薬残留分析、伊予市における大気中の農薬の浮遊量と落下量の分析を担当した。

薬剤の捕集については、大気中の浮遊量はスチレンジビニルベンゼン共重合体を充填したカートリッジ型サンプラーを、落下量はグリセリンをコーティングした風乾る紙を使用した。

調査結果は、次のとおりであった。

1 河川水の薬剤濃度

伊予市(3 地点)及び久万高原町(3 地点)の 6 地点の散布前後における河川水 12 検体を分析した。その結果、いずれの地点においても MEP は検出されなかった。

(検出下限値: $0.2 \mu\text{g} / \text{l}$)

2 大気中の浮遊量

伊予市の 1 地点において散布前日、当日、2 日後、7 日後の 4 回、散布薬剤を捕集した 7 検体について分析した。その結果、散布直後の 1 検体から MEP を検出した。

(検出下限値: 絶対量 $0.1 \mu\text{g}$)

3 落下量

伊予市の 3 地点において、散布前日、当日、2 日後、7 日後の 4 回、散布薬剤を捕集した 12 検体について分析した。その結果、散布当日の 3 検体及び 2 日後の 1 検体から MEP を検出した。

(検出下限値: 絶対量 $2.0 \mu\text{g} / \text{m}^2$)

平成20年度試験検査精度管理実施結果

水質化学科

「理化学試験精度管理」事業は、保健所及び衛生環境研究所で実施している試験検査の信頼性を確保するとともに、分析及び検査技術の向上を図ることを目的とし、昭和62年度から継続して実施している。

本年度は、分析項目を鉄及びその化合物、マンガン及びその化合物の2項目とし、3保健所及び衛生環境研究所の4機関で実施した。

平成21年1月中旬に衛生環境研究所が模擬試料(1検体)を調製して各機関に配付し、各機関は指示した方法により分析を実施した。

各機関から報告のあった分析方法及び分析結果について検討したところ、鉄及びその化合物について1機関が回収率にやや問題があったが、その他はほぼ良好な結果であった。